

福島市下水道事業経営戦略【改定版】の概要

- 『福島市総合計画』の重点施策「環境にやさしい美しいまちづくりの推進」を実現するため、個別計画として『福島市下水道ビジョン』を策定。事業を実施するにあたっての投資とその財源を具体化するため平成29年度に『福島市下水道事業経営戦略』を策定し、以後3年毎にローリング方式により改定している。（前回は令和2年度に改定）
- 『経営戦略』では、中長期的に持続可能な経営についての見通しを示している。
- 『経営戦略』前回改定から3年が経過したが、この間の決算等进行分析し、現況を踏まえて内容の見直しを行った。



令和6年度から令和15年度までの新たな10年間での見直しを実施

主な見直し点

1 経営比較分析表等を活用した現状分析

総務省が全国の公営企業から集約し公表している経営比較分析表を活用することで他公営企業との比較、複数の指標を組み合わせた分析を行い、経営の現状及び課題を的確かつ簡明に把握することが可能となった。
また、経営の基本方針における目標についても、経営比較分析表の指標毎に設定した。

2 各種整備事業を反映した事業運営

令和6年能登半島地震を踏まえ施設耐震化事業を計画的かつ迅速に実施できるよう投資・財政計画（収支計画）に反映した。また、下水道の未整備地区の新規整備、雨水対策、施設の耐水化やストックマネジメント事業などの各種事業・計画を投資・財政計画に反映した。

3 使用料原価計算の実施

公共下水道事業収支計画の令和6年度～8年度までの3力年の原価計算を実施し、使用料水準の確認を行った。

今後の経営見通し

公共下水道事業	<ul style="list-style-type: none"> ◎使用料収入は緩やかに減少 ◎計画期間中、一般会計からの基準外繰入金を受けずに6億円程度純利益を確保、経常収支比率は全国平均以上を維持 ◎現金・預金が増加し、流動比率は一般的に望ましい200%台に到達 ◎企業債の利息、元金とともに順調に償還し、残高対事業規模比率が改善 ◎令和6年度～8年度までの原価計算表から現行使用料で汚水処理費用を回収可能
特定環境保全 公共下水道事業	◎使用料収入では維持管理費用等を賄いきれず、引き続き一般会計からの繰入れを受けながら運営が必要（自然環境の保全、農業振興地域の水質保全といった公益的側面）
農業集落排水事業	

〈参考〉公共下水道事業の経営指標

	R4年度	R15年度	全国平均
経常収支比率	112.2%	109.0%	107.0%
流動比率	67.8%	210.3%	71.4%
企業債 残高対事業規模比率	1097.6%	669.1%	669.1%

※全国平均は、R3法適用団体の平均

まとめ：上記の経営見通しから令和8年度までの下水道及び農業集落排水施設の使用料について、据置きでの運営が可能